北海道札幌市でオジロビタキ繁殖か

片山 實*・片山慶子*・樋口孝城**

Probable Breeding of Red-breasted Flycatcher (*Ficedula parva*) in Sapporo City, Hokkaido, Japan

Minoru Katayama*, Keiko Katayama* and Takashi Higuchi**

Abstract. Adult male and female Red-breasted Flycatchers (*Ficedula parva*), and a fledgeling considered to be of the same species were observed at Nishioka Park in Sapporo City, Hokkaido, on July 5, 1997. The fledgeling appeared to have very recently left the nest. The adult female was holding a lepidopterous larva in her beak, and looking out for intruders without any sign of leaving the fledgeling. These facts suggest that breeding had probably occurred, and this would be the first documented breeding record of this species in Japan.

Key words: Red-breasted Flycatcher, *Ficedula parva*, Probable breeding, First record, Hokkaido.

キーワード: オジロビタキ, *Ficedula parva*, 繁殖可能性, 初記録, 北海道.

オジロビタキ (*Ficedula parva*) は日本では稀に見られる旅鳥または冬鳥であり、北海道でもこれまでに夏期を含み (Brazil 1991) いくつかの観察記録がある (日本野鳥の会北海道ブロック支部連合協議会 1991)。繁殖地はカムチャッカ半島, サハリンを含むユーラシア中・北部で (Dement'ev and Gladkov 1954), 日本鳥学会 (1974) は、亜種 *F. p. albicilla* を迷鳥として扱っている。繁殖記録は今までのところない。

著者のうち片山・片山は 1997 年の夏に北海道札幌市豊平区の西岡公園での探鳥中に、オジロビタキ成鳥と巣立ち雛と思われる鳥を観察し、合わせてビデオテープに収録した。成鳥雌の行動および巣立ち雛らしき個体の存在は、オジロビタキの繁殖の可能性を強く示唆するものであり、もしそうであればおそらく日本で初めての例となるのでここに報告する。

報告に先立ち、ビデオテープ内容の確認、オジロビタキ繁殖可能性のご教示、投稿にあたっての様々なご指導をいただいた山階鳥類研究所標識研究室の茂田良光氏に深く感謝する。また、貴重なご協力、ご助言をいただいた広川淳子氏および日本野鳥の会札幌支部に合わせて感謝の意を表する。

観察場所は森と池から成る西岡公園内の水源池の上流部である。様々な樹木が生い茂り、網

Received 25 November 1997, Revised 21 February 1998, Accepted 25 February 1998.

* 〒007-0870 北海道札幌市東区伏古 10 条 2 丁目 15-10.

** 北海道医療大学基礎教育部, 〒061-0293 北海道石狩郡当別町金沢 1757.

* 10-2-15-10 Fushiko, Higashi-ku, Sapporo, Hokkaido 007-0870, Japan.

** Department of General Education, Health Sciences University of Hokkaido, Tobetsu, Hokkaido 061-0293, Japan. E-mail: higuchi@hoku-iryo-u.ac.jp

Fig. 1. A female (left) and probable fledgeling (right) of Red-breasted Flycatchers, Sapporo City, 5th July 1997. Image taken from video recording.

状に連なる小川が流れ、湿地帯を形成しているが、森林内の一部分という状況である。

1997年7月5日の午前9時頃、片山・片山は湿地帯にかけられた木道を歩くうちに、まず成鳥雌1羽を、続いてすぐ近くで成鳥雄1羽を発見した。成鳥雄はすぐにいずれかへ飛び去ったが、成鳥雌は鱗翅類の幼虫と思われるものをくわえたまま、近くの枝から枝へと飛び移りを続けた。その行動には観察者を警戒する気配がうかがわれた。成鳥雌の行動を追っているうち、成鳥雌の鳴き声に合わせるかのように、巣立ち雛らしき鳥が1羽枝上に現われ、ヒッヒッと小さく鳴きながら餌ねだり行動を示した。成鳥雌からその鳥への給餌は観察できなかったが、それは近くにいる観察者を警戒してのこととも推察された。最初の発見から、成鳥雌とその雛らしき鳥が飛び去るまで約25分間観察が続けられ、延べにして約15分間の様子がビデオテープに収められた (Fig. 1)。この雌は尾を頻繁に立てる姿勢をとり、外側尾羽の基部が白いこと、および尾羽の色が黒褐色で背と腰より濃いことから、近縁で羽色が似るキビタキの雌ではなく、オジロビタキであると確証を得た。また、餌をくわえたまま観察者を警戒し、大きく移動する気配のない成鳥雌の行動、オジロビタキ巣立ち雛らしき鳥の出現は、西岡公園内でのオジロビタキの繁殖の可能性を十分に示唆するものである。当日の観察およびビデオテープによっても、その雛がオジロビタキ雛であると断定することはできず、当地で繁殖しているであろうキビタキあたりの雛である可能性は残るが、成鳥雌の行動と合わせ考えると、オジロビタキ雛と考えるのが妥当と思われた。また、尾が短いこと、羽色と羽毛の状態および十分とは見えない飛翔力から、巣立ち後まもないものであり、巣からの移動距離も短いものと推測された。

この観察はただ一度だけの、しかも短時間のものである。片山・片山はこの観察の翌日および1週間後に同地点を中心としたかなり広い範囲を調査したがオジロビタキを再び観察することはできなかった。西岡公園は札幌市でも有数の探鳥地であり、年間を通して多くの探鳥家が訪れる場所であるが、オジロビタキの成鳥雌雄が確認されたのは今回が初めてである。オジロ

ビタキは当地で過去に2, 3度観察されたという風聞(広川, 私信)もあり, 1997年よりも前から当地に飛来していた可能性はあるが, もしそうだとすると極めて稀なものであり, 繁殖と結びつけて考えるのは困難であろう。

今回のことをもって西岡公園でのオジロビタキの繁殖が確認されたということは決して言えない。しかし, 繁殖の可能性を示唆することは確かであり, 1998年以降の本格的調査が必要である。

引用文献

Brazil, M. A. 1991. The Birds of Japan. Christopher Helm, London.

Dement'ev, G. P. and Gladkov, N. A. 1954. Birds of the Soviet Union. Vol. VI. Israel Program for Scientific Translations, Jerusalem (Translated from Russian, 1968).

日本鳥学会(編). 1974. 日本鳥類目録. 改定第5版. 学習研究社. 東京.

日本野鳥の会北海道ブロック支部連合協議会(編). 北海道地域別鳥類リスト. 野生生物情報センター. 札幌.